



# 年頭のご挨拶

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、市議会の活動に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染者数は、昨年のピーク時と比較して減少し、ワクチン接種も着実に進んでいるところではございますが、今後の変異株の出現や第6波の到来が懸念されるなど、いまだ予断を許さない状況が続いております。

長引くコロナ禍の中、最前線で社会を支えていただいているエッセンシャルワーカーの皆様をはじめ、感染防止対策を続けていただいている事業者や市民の皆様様に改めて感謝申し上げます。

コロナの影響により、昨年さまざまな行事が中止となり、各団体や市民の皆様との意見交換の場が思うように持たず、心残りもございました。外出時のマスクの着用や密の回避、テレワークの推進など、新しい生活様式が浸透してまいりましたが、その多くは感染が終息したあとも続くと言われております。

終息後のあるべき姿が模索される中、市議会といたしましても、これまで以上に、市民の皆様の声をよく聞き、一人ひとりに寄り添いながら、安全安心な生活の実現に向けて、実効性の高い施策が展開されるよう努めてまいります。

また、本市にとって最重要課題のひとつである基地問題については、空母艦載機の移駐から4年が経過しようとしています。空母艦載機による騒音は相当程度減少している状況ではありますが、今後の厚木基地の運用などについては具体的に示されていないことから、今後も注視を続けてまいります。

市議会は、二元代表制の一翼を担うものとして、地方自治を推進するとともに、住みよい大和市をつくるために、全議員が一丸となり、より一層信頼され、開かれた議会となるよう今後も努力を重ねてまいります。

市民の皆様におかれましては、どうか本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、本市政に多大なるご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスがまん延して2年目、さまざまな行事が中止となる中、感染状況を勘案して成人式を4月に延期して開催するなど、改めてコロナ禍での施策の遂行について熟考を重ねた一年でした。

感染拡大防止の鍵となるワクチン接種について、本市では、公共施設での「集団接種」、各医療機関による「個別接種」に加え、地域特性や接種状況に合わせて柔軟に会場を設営する「別動隊」の3体制を構築し、効率的な対応を図ってきました。

4月の高齢者施設での接種を皮切りに、5月17日からは市民を対象とした集団接種を開始。翌18日には市立病院の歯科医師が日本で初めてワクチン接種に参加し、打ち手不足の解消に一役買っています。また、別動隊は高齢化率の高い二つの大規模団地での接種をはじめ、妊婦とその家族への優先接種、外国籍市民への接種などを機動的に行いました。

さらに、コロナ対策の中心を担う保健所がひっ迫した際には市職員を派遣したほか、自宅療養者への食料支援や、ひとり親家庭及び低所得の子育て世帯へ臨時給付金を支給するなど、生活困窮者支援を行いました。

コロナ対策以外では、1月に「ふれあいの森スカイ広場」がオープンし、連日多くの若者が東京五輪で注目されたスケートボードなどを楽しんでいるほか、4月には、大和駅至近に公私連携型子育て支援施設「こどもの城」が完成し、子どもたちの笑顔であふれています。

一方、長寿化の進展による「人生100年時代」を見据えた中で、以前から人生終盤の準備を行う「終活」支援を行ってきましたが、6月には全国初の「大和市終活支援条例」を制定しました。また、高齢化に伴う認知症の増加に備える平成28年の宣言を基に、9月に「大和市認知症1万人時代条例」を制定し、認知症への理解を深め、ともに歩むまちを目指しています。

本市の施策は国際的にも高く評価されており、世界銀行東京開発ラーニングセンター主催の研修会で、本市の健康都市に関する取り組みを紹介しました。

本年も、24万市民の命と健康を守るため、全身全霊を傾けてまいりますので、何とぞよろしく願い申し上げます。

大和市議会議員 吉澤 弘

大和市長 大木 哲